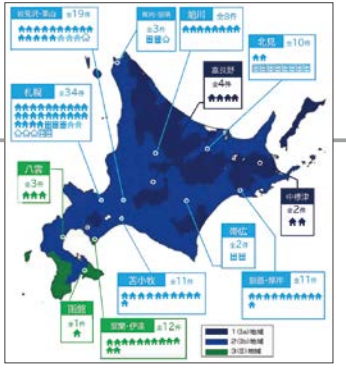
断熱等級６・７で全館空調普及へ

オール電化で年間冷暖房費11万円

オンラインセミナー



コンフォート 24 の道内実績

キューワンボード MA の施工例

10月3日、アキレス㈱、㈱システック環境研究所、北海道電力㈱、YKK AP㈱の4社が共催でオンラインセミナー「断熱等級6・7の創設で北海道の住宅はこう変わる！」を開催した。

最初に道建設部住宅局の佐々木智和氏が「『ゼロカーボン北海道』の実現に向けた取り組み」と題して基調講演を行い、普及を加速させている北方型住宅の中で最も性能水準が高い「北方型住宅2020」をPRした。

続いて、アキレス断熱資材事業部の本田俊裕氏が「脱炭素で求められる断熱・気密性能」について講演。高断熱住宅の断熱仕様について、北方型住宅2020はキューワンボード外張り61㎜、さらに等級6以上になると軸間へのグラスウール充てんを併用、等級7はキューワンボード100㎜の外張り付加でクリアする。この100㎜付加断熱に適した新製品が、一発施工できるキューワンボードMA。気密性能は、外で風が吹いても漏気量が少ないC値0.5㎠/㎡以下を確保すべきだとした。

次に、YKK AP北海道商品開発室の倉島淳一室長が「等級6、7の開口部仕様について」と題して講演。今後は等級6が北海道の標準仕様になるとし、開口部仕様を計算した。断熱等級6は、トリプルガラス樹脂サッシのAPW430と充てん断熱にλ値0.020Wの付加断熱材66㎜厚でUA値0.25Wとなり、クリアすることができる。

システック環境研究所の西郷昌高氏は、「断熱強化でパネルヒーターからヒートポンプ全館輻射空調へ」と題して講演。断熱等級6で暖房負荷が4kW以下になり、14畳用と謳われている冷暖房エアコン1台で全館空調できる。試算によると同社のコンフォート24は、札幌で等級6クリアなら延床面積43坪の住宅で冷暖房費は年間11万円。北見は等級7クリアで年間10万円以下。北海道の全館空調に必要な条件としては、断熱等級5以上で、C値0.5㎠/㎡以下とした。

最後にほくでんサービス㈱営業推進部の鎌田茂氏が「脱炭素の北海道電力としての取組み」を講演。北海道電力では、2050年までに発電部門からのCO_2排出ゼロを目指しており、これが実現すれば「使用される電力は全てゼロカーボン＝オール電化はゼロカーボン」になると話した。